

ぎんまい長岡京

長岡京吟詠会 会報
第61号 令和6年3月1日
発行 長岡京吟詠会
会長 本庄賀秀峰

皆様のご協力で総会を終えました

2月25日(日)はあいにくの小雨でしたが、長岡京吟詠会総会が開催されました。

会の運営の刷新、緊迫財政、会員の高齢化と減少傾向など多くの課題を抱えた総会となりました。また、議案書に不備な点が多々あり皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。例年より多くの方から質問や積極的な意見の発言がありました。会則第6条「顧問・賛助会員」に関する改定案も賛成多数で可決され、全ての議案が可決されました。

意見や質問が集中した財務部に関する事柄や議案書作成の問題など多くの宿題を提起する総会となりました。早急に幹部会や運営委員会で討議し、解決に向けた取り組みを始める必要があると思います。(事務局)

梅花ふくいく護郁

野口賀秀恒

梅の香りに誘われて長岡天満宮の梅林に足を運びました。春の訪れを感じ、思わず大きな声で“寒梅”を吟じました。柔らかな陽差しの中で、梅の花も微笑んで聞いてくれました。

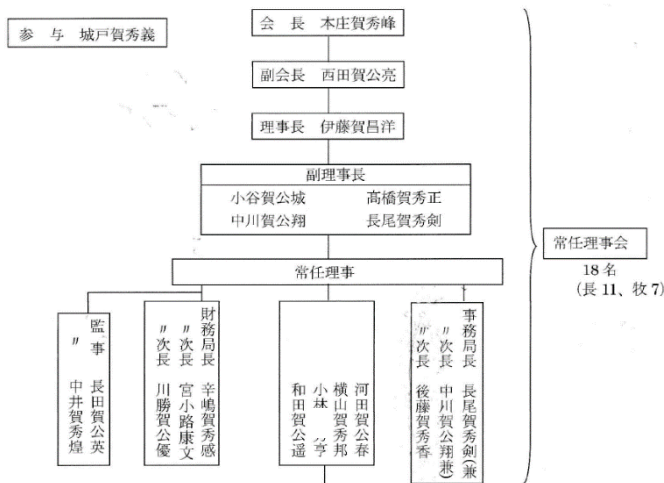
つらい時期を耐え抜けば、必ずや幸せな時期が来る！二度の大病を乗り越え、詩吟と共に在る今、寒梅に心寄せたひと時でした。



京都本部常任理事会報告

2月18日、令和6年度の第一回吟道賀堂流京都本部常任理事会が行われ、下記の議案が検討されました。

令和6年度京都本部新役員構成案



- ②令和5年度事業・決算報告(案)、令和6年度事業計画・予算(案)
- ③「吟道賀堂流創流90周年記念大会」構成吟案の確認と出場者の割り振り

昇格おめでとうございます！！

この度2月1日付で、次のお2人が初級に昇級されました。おめでとうございます。さらに上を目指して、楽しく稽古に励んでください。(ともに、わかたけ詩吟クラブ)

- 初級** 山口勝弘さん(わかたけ詩吟クラブ)
- 山口澄子さん(わかたけ詩吟クラブ)

シリーズ その3 【京都の和歌・俳句の石碑を紹介】

奥 堂秀信

中世武将でもっとも有名な大阪人と問えば、河内の武将“楠木正成”と答える人が多いと思います。世に伝わる彼の功績は、

- 鎌倉時代後期、金剛山千早城に約千人で籠城、奮戦して、数万の鎌倉幕府軍を引き付け、地方の蜂起を促し、南朝の後醍醐天皇政権をよく助けたこと。
- 南北朝後期、足利尊氏の軍に追われ摂津桜井(JR島本駅付近)で、楠木正成は子の正行と別れ、自らは神戸湊川で討ち死。正行ものちに父の遺志を継ぎ南朝の天皇のために四条畷の戦いで死した。

日本人漢詩作家のうち、楠木一族に称賛の言葉を残しているのは、頼山陽、菅茶山、菊池溪琴、徳川景山、吉田松陰などで、更に和歌では、坂本龍馬、山岡鉄舟など敵味方ではあるが、幕末の立役者にも尊敬され、人気のほどが推測されます。

さらに大阪で話題の2と言え、時代はずっと後ですが、徳川將軍の奥医師“緒方洪庵”が開いたオランダ語塾『適塾』でしょう。最盛期の江戸後期25年間で3千人の塾生を集めたという当時最強の塾でした。

塾生には、『獄中の作』の橋本左内や『花を惜しむ』の福沢諭吉、『日本刀』の大鳥圭介らがいました。

『適塾』は、今も地下鉄御堂筋線と京阪電鉄「淀屋橋駅」より徒歩10分の所にあり、見学が可能です。



適塾

R6/3・4月の予定

3/ 3(日)愛連フェスティバル	尼崎市総合文化センター
3/10(日)賀堂流京都本部役員総会	丹波マークス
3/20(祝)賀堂流流碑祭・総本部役員総会	姫路護国神社
3/23(土)京都府総連審査員研修会	京都アスニー
3/31(日)京都本部前期資格認定会	中央公民館 13:00～
4/ 7(日) 定期発表会(1)	長岡京こらさ 13:00～
4/14(日) 全国吟詠コンクール京都大会	ラポール京都
4/18(木) 全国吟詠コンクール京都大会	ラポール京都 (事務局)

今のわたし(近況報告)

中井賀秀煌

肺がんの手術を受け4年半が過ぎました。術後、詩文の起句を吟じることも、30分間歩くこともできず、好きなテニスも2～3回ラリーすると息が上がる状態でした。しかし、今では2時間ぐらゐは歩けるようになり、テニスも息は上がるものの動けるようになり、吟も律詩を何とか吟じることができるようになりました。体力的には十分に回復し、年齢の割には元気な方だと思っています。

園芸の方も、1,000球ほど植え付けたチューリップが3～5cm芽吹いています。狭い我が家の庭には、クリスマスローズが可愛い花を咲かせ、水仙、クロッカス、アネモネなど色々芽吹きにぎやかです。プランター15個ほどにサラダ菜を育て、10～15cmくらいで順次毎日食しています。これからは夏野菜のトマト、キュウリなど、またチューリップの咲き終わった後の花苗の種まきです。忙しくなります。

聴ずかしながら上の歯は入れ歯です。先日形状を変えてもらい、口の中での共鳴が少しは以前の状態になったかなと思っています。2年ほど前から耳が聞こえづらくなり、いま補聴器を付けています。補聴器を付けたからと言って元のようになったという感覚ではありません。伴奏が耳から入り、吟詠した時の自分の声が混ざったとき、なんか不自然というか違和感があり、何か変で、吟じていても納得いかず、慣れるようにはと思っていますが中々…。

最近さぼりグセが付いたのか声出しが週に2～3回になり、自分でも情けなく思っています。

頑張らなくてはいま気分的に少し落ち込んでいる状態です。

2月21日付の朝日新聞「折々の言葉」に次の言葉がありました。いまの私に元気を与えてくれる文章でした。

『音楽はまず声から出発するんだ。全部の楽器は全部人間の声の代理なんだ。』(小澤征爾)

メロディを奏でるヴァイオリンやフルートのみならず、リズムを刻むティンパニーにだって「人間の声がやりたい願い」がこもると、指揮者は言う。そしてその演奏や伝わり方も、人それぞれに異なる。音楽は「公約数的」なものではなくどこまでも個人的なもの。大切なのは巧拙ではなく、人と音楽とが「どこでつながるか」だ。

私の詩吟人生

澤崎 賀秀辰

私は、長岡京吟詠会に昭和61年に入会してこの4月で38年になります。

いま趣味としての詩吟人生を振り返ると、コンクールなどに出場して詩吟を吟じることも多くありましたが、吟詠会の研修部に所属して、月例研修会、研修会、特別研修会などの会が運営する行事にたずさわっていたことに感慨を覚えます。

研修部には、人に勧められて入会6年目(奥伝)に入部することになり、平成9年に研修部長に任ぜられました。

そしてこれら諸研修会の受講者募集、プログラムの作成、研修資料の作成、会の進行など多岐にわたる作業をやることになったのですが、月例研修会(年に8～9回開催)では、自分のアイデアを取り入れた企画を試す機会もあつたりして、充実した楽しい時期もありました。

研修部長は平成29年まで21年間勤めましたが、その間、16回連続で「一年間研修会皆勤表彰」という皆勤表彰をいただきました。

今年84歳になって、体力・気力が衰えて自分を持って余すこの頃ですが、詩吟を吟じるとき「詩吟は楽しいな、詩吟をやってきてよかったな」と思うことがあります。

ほっと一息、休憩タイム

若いころは、旅行、登山などのいく先々の場所で、ここは漢詩と関係のある土地ではなかったかしら? といつも考えていたものです。



かつて、詩舞の免状をいただきに宇都宮に行った時のこと、帰りの東京駅で、今からだど早く家に着きすぎると思い、折角出かけてきたのだからと、いつもの欲張りな気持ちが頭をもたげてきて、時間を計算しているのです。気が付けば水戸駅前の助さん、格さんを従えた黄門さま(徳川光圀公)の銅像の前にいました。テレビドラマのような感じで少々うれしくなりました。すぐ前には弘道館があり、黒い塀を手で撫でながら一周したものです。広い梅林も散策し、束の間の時を味わい楽しみました。 横ちゃん

シルバー川柳のご紹介(1)

ネットから集めました。これからはばらくお楽しみください。

- ・この頃は 話も入れ歯も 噛み合わず
- ・立ち上がり 用事忘れて また座る
- ・改札を 通れずよく見りゃ 診察券
- ・骨が減り 知人も減るが 口減らず
- ・耳遠く オレオレ詐欺も 困り果て



『ぎんまい長岡京』 編集室
編集委員長 後藤賀秀香
編集委員 宮小路康文、櫻澤賀秀櫻、
本庄賀秀庄

※連絡・問合せ先 後藤賀秀香 tel 075-331-0241